

学校教育目標

創 【未来を拓く】

～輝く瞳、笑顔とあいさつ、光る汗～
めざす生徒像 「気づき 考え 行動する」生徒

- (1) 学び合い、高め合う生徒⇒輝く瞳・・・(知)
- (2) 認め合う、心豊かな生徒⇒笑顔とあいさつ・・・(徳)
- (3) 心身共に健康な、たくましい生徒⇒光る汗・・・(体)

めざす学校像

基本理念【ひとりの生徒を 粗末にしたとき 教育は その光を失う】

- (1) 学力向上に努める学校
- (2) あいさつと歌声が響く学校
- (3) 安全で安心してすごせる学校
- (4) 清潔で花いっぱい学校
- (5) 地域とともに歩み、信頼される学校



ツキを呼ぶ魔法の言葉「ありがとう」

以下の話は、工学博士の五日市剛^{いつかいちつよし}さんの体験談です。

五日市さんは、ある特技をもっていました。それは、「人のあらさがし」です。初対面の人と10分間話をしただけで、その人の欠点・短所を10個くらい挙げることができました。そして、それを思っているだけでなく、ストレートに相手に言ってしまっていたのです。

五日市さん自身の言葉で言うと「口から毒を放っていた」そうです。その結果、学校に行けば友達とケンカばかり。アパートに帰れば、大家さんと毎日のように言い合いばかりしていました。「自分はいつでも正しくて、周りがみんな悪い」と思っていたのです。当然、人間関係は最悪でした。そうすると、精神的にもきつくなって、いっぱいいっぱいの崖っぷち状態に陥りました。

人間は、そういう極限の状態になると、次の3つのうち、どれかひとつの行動を取りやすいそうです。

- 1つ目は、人を傷つける。
- 2つ目は、自分を傷つける。
- 3つめは、逃げる。

五日市さんは、3つ目を選びました。現実逃避をしたのです。イスラエルに一人旅に出かけました。イスラエルでも、踏んだり蹴ったりで、暖かいと聞いていたので半そで短パンで行ったら70年に一度あるかないかの寒波で雪は降っているし、お金は落とすわ、詐欺にも遭うわで散々な状態でした。

泊まる宿もなく、「なんて俺はツイてないんだ」と道端に座り込んでいると、一人のおばあさんが「どうしたんですか？」話しかけてくれました。「日本から来た学生で、お金は落とすし宿もないし、困っているんです」と言ったら、「だったら家に来なさい」と言って食事を食べさせてくれ、泊めてくれたのです。

そのおばあさんは、その時こんな話をしてくれました。「ツイていない、ツイていないと言うけれど、ツキを呼ぶ魔法の言葉があるのよ」「とても簡単なの。1つは、『ありがとう』、もう1つは、『感謝します』よ」

五日市さんは、その言葉を聞いてがっかりしました。

「なんだ、月並みな言葉じゃないか。そんな言葉、みんな言っている。その言葉がツキを呼ぶのなら、世の中の人がみんな幸せになるはずじゃないか」

おばあさんは言いました。「でもね、この言葉、言えるようで本当は言えてないんじゃないかな？この言葉には、使い方にコツがあるのよ。嫌なことがあったら『ありがとう』、いいことがあったら『感謝します』って自分に言うのよ」「不幸は重なるって言うけど、嫌なことはまた嫌なことを連れてくる。だけど、『ありがとう』って言葉は、どんなに不幸と思われる現象も、幸せと感じる状況に変えてくれるの。『ありがとう』って言葉は、魔法の言葉なの」

例えば、仕事が忙しくてイライラしているような時も「イライラさせてくれてありがとう」、もし、親がなく亡くなっても、歯を食いしばって「ありがとう」と言うのだそうです。



まさに精神的にボロボロの状態で「ワラにもすぎる思い」だった五日市さんは、「ありがとう」「感謝します」という言葉を絶対にマスターしようと考え、マジックで手の甲や服の袖、シャツなど、体中のありとあらゆる所、目につく所に「ありがとう」「感謝します」と書きまくりました。パンツにも……。そして、五日市さんは、日本に帰国すると常に「ありがとう」「感謝します」という言葉を使うようになりました。その結果、実際にツキまくったと言うのです。最悪だった人間関係も、劇的に良くなりました。



例えば、五日市さんが車を運転していたら、前から走ってきた車がセンターラインをはみ出して、こちらの車線に入ってきたことがありました。

衝突の瞬間、五日市さんは「うわあああ〜！！ありがとうおお〜」と叫んだのです。もちろん、車はぐしゃぐしゃになりましたが、幸いにも体は大したことはありませんでした。五日市さんは、車を降りて相手のところに行きました。普通だったら、「お前、何をやるんだ！！」って怒る場面だと思います。

ところが、「ありがとう」と叫んだおかげで怒りはすっかりおさまっていて、「体、大丈夫ですか？」と相手のことを気遣った言葉をかけてあげられたのです。

相手の方は、家族で乗っていたそうで、お母さんが運転していて、自分の方が完全に悪いのがわかっていたので、どんな罵声を浴びせられるのかと思っていたら、「体、大丈夫ですか？」という言葉をかけられ、「五日市さんが神様のように思えた」と言っていたということです。

そしてもう1つの「感謝します」という言葉。いいことがあったら「感謝します」と言う。この言葉は、まだそういうことが起こってなくても「感謝します」と言うとそれが現実になるという使い方もあるそうです。

ある難関私立大学を目指す高校生。3年生の11月頃の模試の結果が「D判定」でした。その高校生は、五日市さんの講演を聞いてすぐ、第1希望の大学の門の前で、大学をバックにガッツポーズの写真を撮り、大きく引き伸ばして「〇〇大学に合格しました！感謝します！！」と書いて、机の前に貼ったそうです。毎日、その写真を見ながら勉強を続けると、なんと合格することができたということです。

「ありがとう」や「感謝します」という言葉には、そんな力があるのです。

私は、この話を読んで、そう言えば「ありがとう」「感謝します」という言葉は、使っているようであまり使っていないのかも知れないなと思いました。

「ありがとう」は、
不幸を幸せに変える力をもつ。
「感謝します」は、
よい結果を招いてくれる。

私は、「夢や希望をもつこと」「それに向かって努力を続ける」という話を今まで生徒達にしてきました。次から、この二つの言葉を添えて、「ありがとう」「感謝します」の言葉は口に出して言うと、最初はそんな風に思っていないなくても、だんだんそう思うようになってくるのだと伝えたいと思います。

夢が叶うの「叶う」という字は、口に十と書くのですが、その漢字のとおり、口に出して10回言えば、夢は叶いやすくなるそうです。

